

報道関係者 各位

平成 25 年 9 月 10 日 (火)

**【照会先】**

政策統括官付政策評価官室

アフターサービス推進官 生田 直樹

室長 補佐 坪井 宏徳

(代表電話) 03(5253)1111(内線 7773)

(直通電話) 03(3591)3902

## 「若者の意識に関する調査」の結果を公表

厚生労働省は、「若者の意識に関する調査」を実施し、その結果をとりまとめましたので、公表します。

本調査は、今後の我が国を支える若者の意識面の特徴を捉え、「平成 25 年版厚生労働白書」の作成等に当たっての資料を得ることを目的として、平成 25 年 3 月に実施したものです。

調査結果の概要を添付いたしますので、御参照ください。

### 【調査結果例】

#### ● 「現在の生活満足度」

回答者全体としては、満足している（どちらかといえば満足と回答したものを含む。）と回答した者が 6 割を超えた。職業別で見ると学生、専業主婦（主夫）、公務員、経営者・役員などで満足している者の割合が高い。また、生活に満足を感じる者の割合は、既婚者が未婚者や離別者と比べて高く、強い不満を感じる者の割合も最も低かった。

#### ● 「日本の未来に対する考え」

日本の未来については、19.2%が日本の未来は明るいと回答（そう思う、どちらかといえば、そう思うと回答した者）した一方、45.1%が日本の未来について明るいとは考えていないと回答（どちらかといえば、そう思わない、そう思わないと回答した者）した。

未来を良くするための意欲については、仕事や学業を通じて社会に貢献したいと回答した者の割合が 28%、考えてはいるが、具体的にどのようにすべきかわからないとの回答が 26.8%であった。

## 【調査概要】

### (1) 調査目的

今後のわが国を支える若者の意識面の特徴を捉え、厚生労働白書および今後の制度検討の基礎資料として活用することを目的として、2013年時点における若年層（15～39歳）の意識調査を実施した。

### (2) 調査方法

アンケート調査を株式会社三菱総合研究所に委託し、インターネットモニター会社に登録しているモニターから、15～39歳のモニターを対象として、居住地（全国8ブロック）、年齢、性別による構成比に応じてサンプル割付のうえ、回答依頼を実施した。

### (3) 調査期間

- 平成25年3月26日（火）～平成25年3月27日（水）

### (4) 回答数

- 回答数 3,133件
- 年齢・性別回答数

		全体	年齢				
			15歳～19歳	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳
全体		3133	510	526	597	688	812
性別	男性	1594	262	269	303	348	412
	女性	1539	248	257	294	340	400

### (5) 調査項目

#### ●属性情報

1) 性別	4) 子どもの人数	7) 最終学歴
2) 年齢	5) 同居人数	8) 就業状況
3) 婚姻関係	6) 世帯年収・個人年収	9) 居住地

#### ●意識調査項目

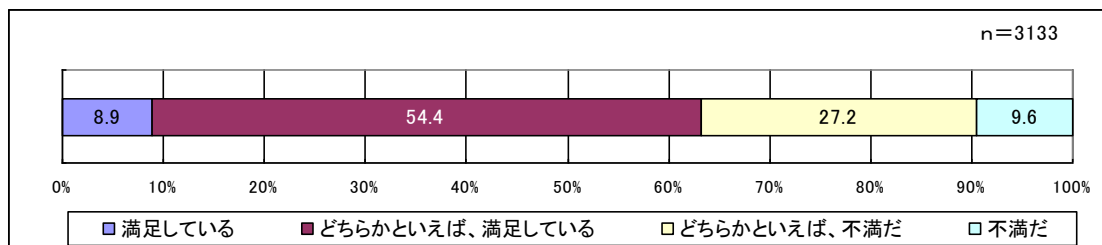
1) 日本の未来	15) 専業主婦志向の有無
2) 思い通りにならないときの考え方・行動	16) 働く上で重要と考えること
3) 他人と深い関係を持つことへの考え	17) 希望する雇用形態
4) 生活満足度	18) 希望する将来の暮らしぶり
5) 親との同居理由	19) 仕事をどの程度がんばるか
6) 結婚に対する考え	20) 海外就労意向
7) 未婚理由	21) 職場におけるジェンダーに関する考え方
8) 結婚のきっかけ	22) 日本型雇用慣行への評価
9) 子どもを持つことに対する考え	23) 起業意向
10) 子どもを育てる際に必要な世帯収入	24) 社会のために役立ちたいか
11) 最も大変だと考えられる子育ての時期	25) 社会的起業・ソーシャルビジネスの認知度
12) 子どもがのびのび育つために必要なこと	26) 社会的起業への評価
13) 出産予定年齢	27) ボランティア・寄付の経験/意向
14) 妊娠と年齢の関係についての知識	

【参考:主な調査結果】

(1) 「現在の生活への満足度」

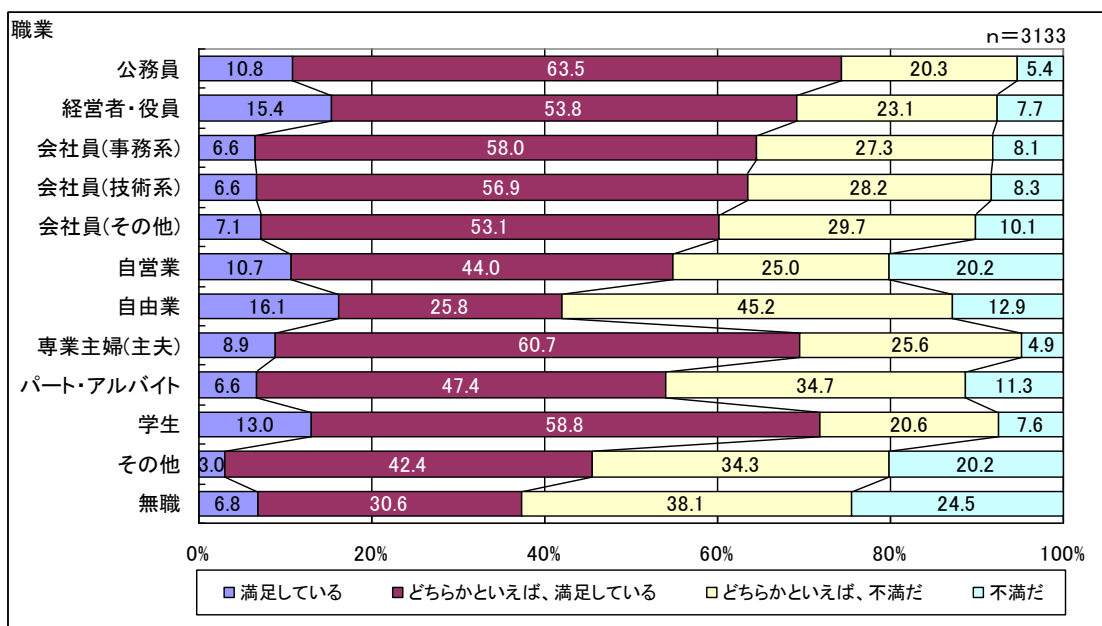
回答者全体としては、満足している（どちらかといえば満足と回答したものを含む）と回答した者が6割を超えた。

図表 1 現在の生活への満足度(全体)



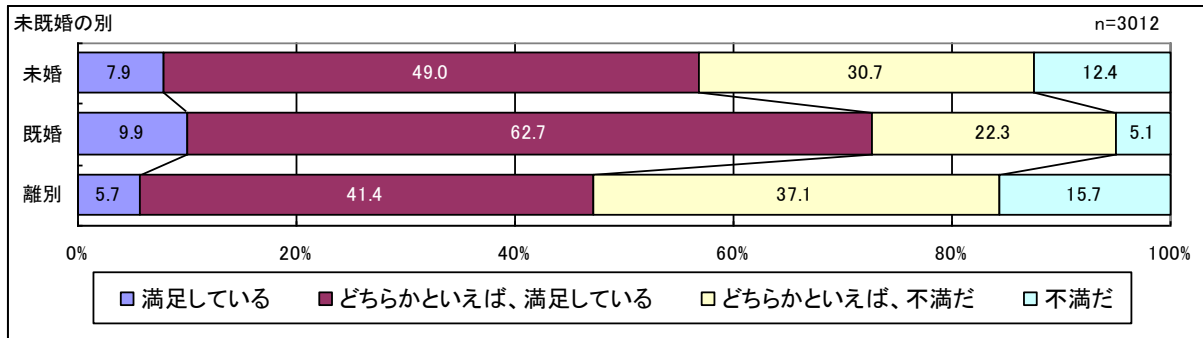
職業別で見ると学生、専業主婦（主夫）、公務員、経営者・役員などで満足している者の割合が高く、無職、自由業、パート・アルバイト、自営業などで不満を感じている者の割合が高い。

図表 2 現在の生活への満足度(職業別)



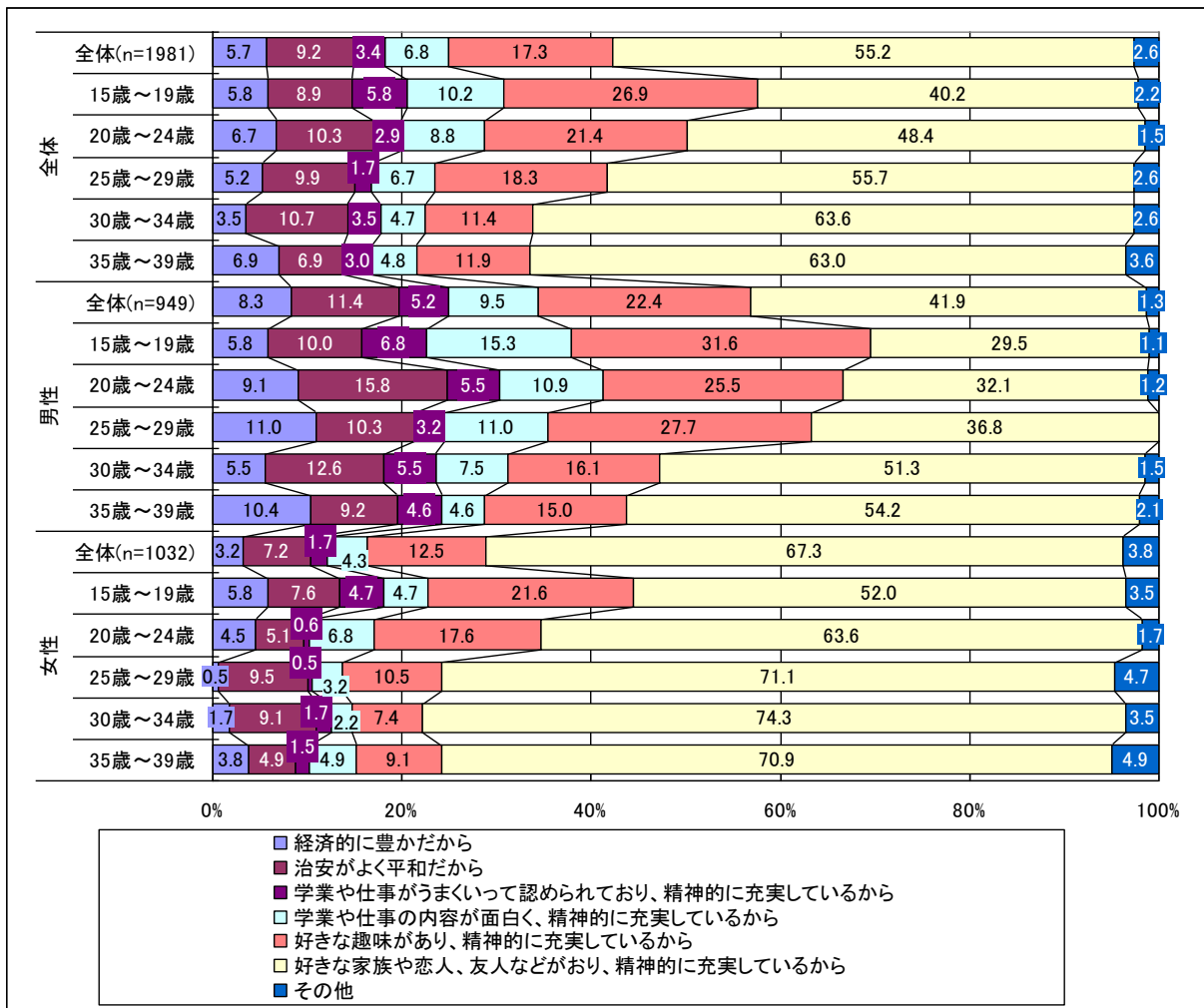
現在の生活に満足を感じる者の割合は既婚者が未婚者や離別者と比べて高く、強い不満を感じる者の割合は最も低い。

図表 3 現在の生活への満足度(未既婚別)



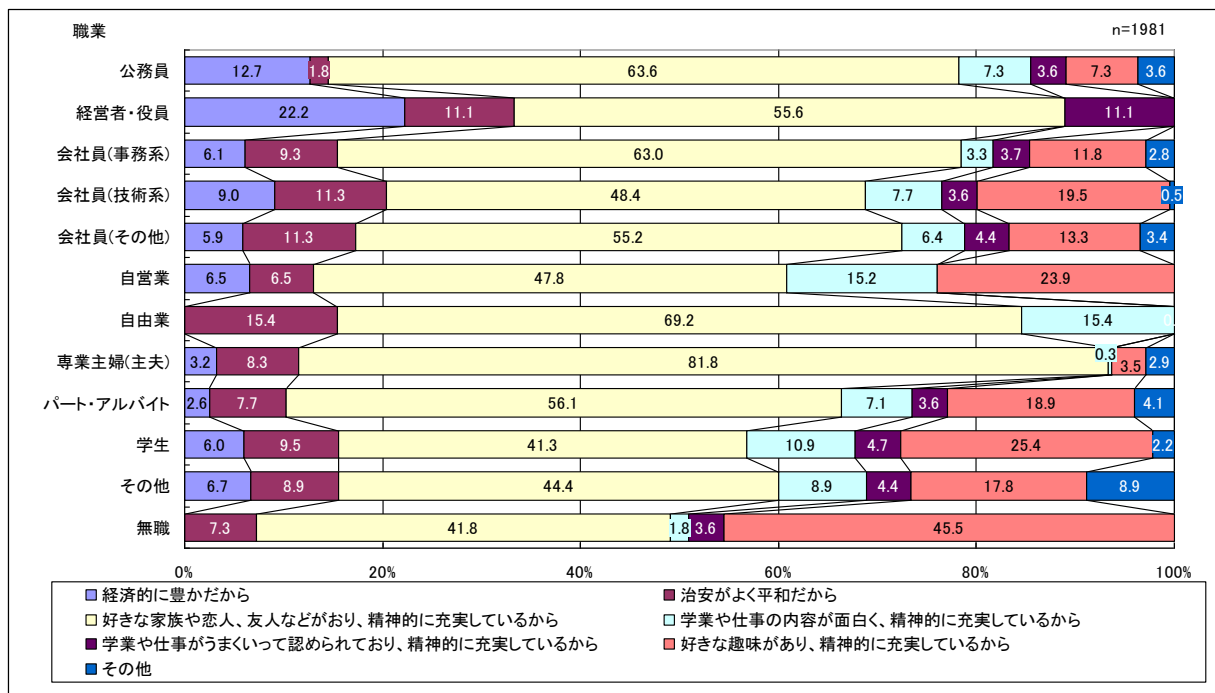
生活に満足を感じる理由は回答者の過半数が好きな家族や恋人、友人などがおり、精神的に充実しているからを理由に挙げている。性別では女性は男性に比べて好きな家族や恋人、友人などがおり、精神的に充実していることを理由とする者の割合が高い。

図表 4 生活満足の理由(全体)



職業別では経営者・役員において、経済的豊かさを理由に挙げる者の割合が他の職業と比べて多く、未婚者も経済的豊かさや仕事の充実を挙げるものが多かった。

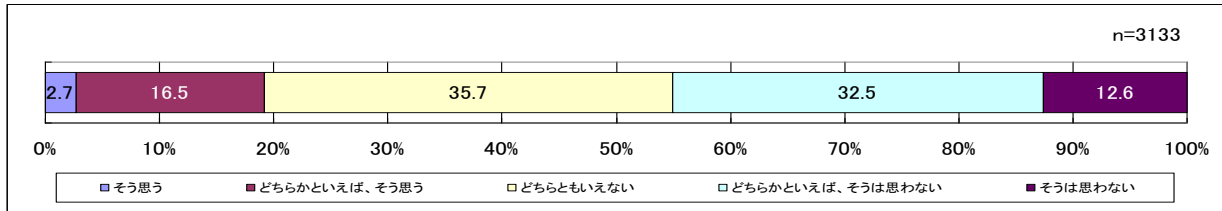
図表 5 生活満足の原因(職業別)



## (2) 日本の未来は明るい

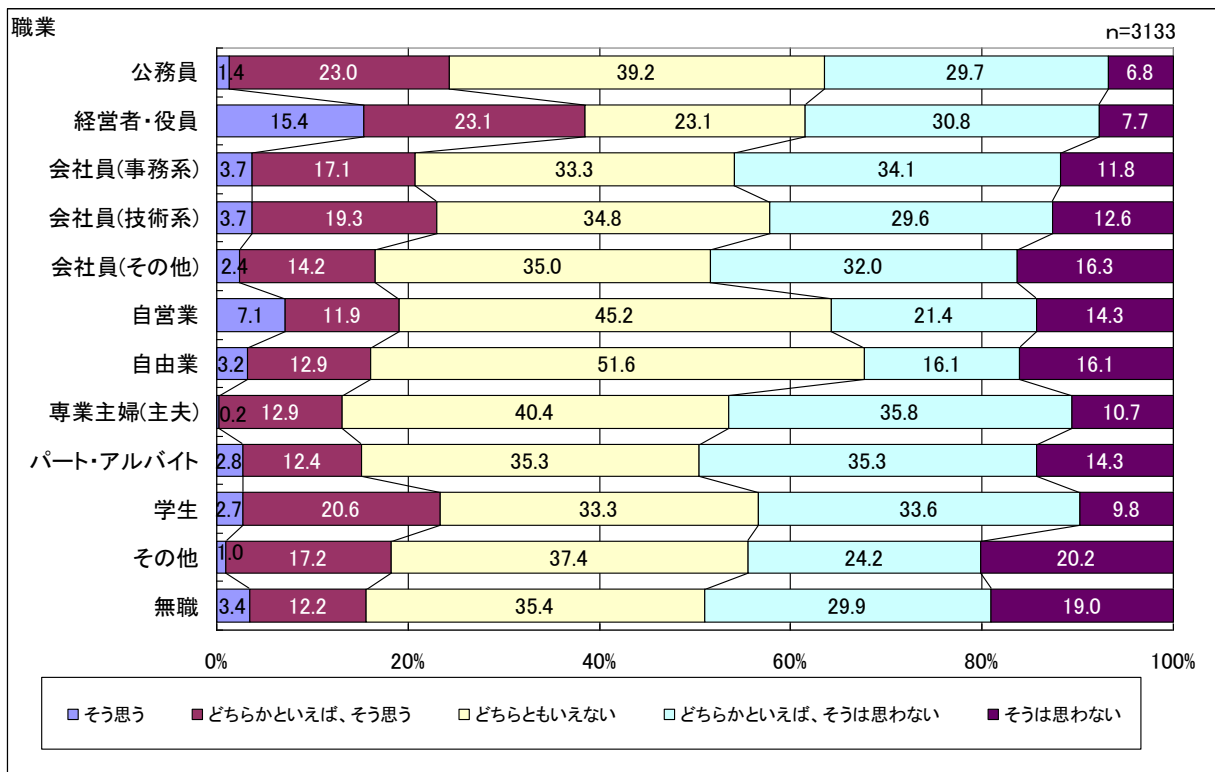
日本の未来については、19.2%が日本の未来は明るいと回答（そう思う、どちらかといえば、そう思うと回答した者）した一方、45.1%が日本の未来について明るいとは考えていないと回答（どちらかといえば、そう思わない、そう思わないと回答した者）した。

図表 6 日本の未来は明るい(全体)



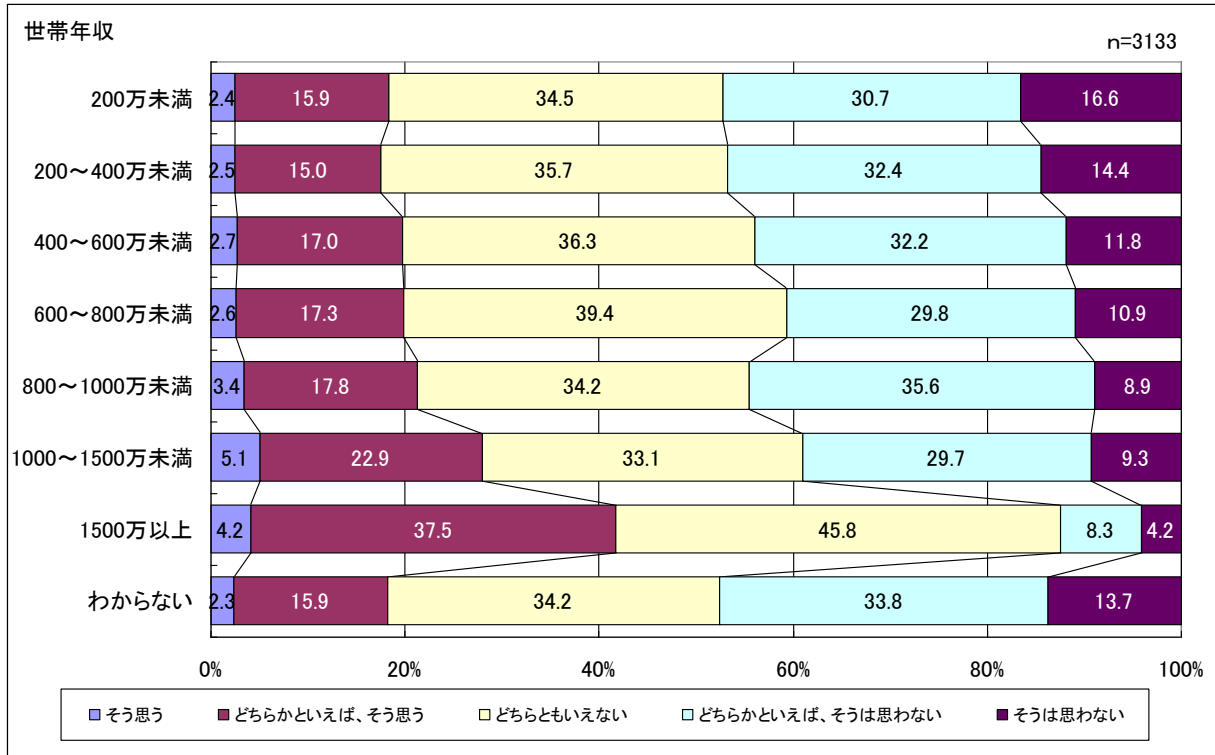
職業別に見ると、経営者・役員で日本の未来は明るいと考える者の割合が高い。

図表 7 日本の未来は明るい(職業別)



世帯年収別では 1500 万円以上の世帯で日本の未来は明るいと考えている者の割合が高い。

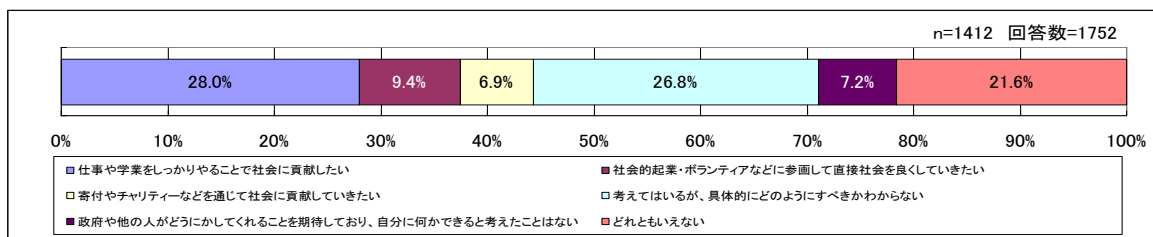
図表 8 日本の未来は明るいか(世帯年収別)



### (3) 日本の未来を良くしようという意欲

未来を良くするための意識については、全体として仕事や学業を通じて社会に貢献したいと回答した者の割合が28%、考えてはいるが、具体的にどのようにすべきかわからないとの回答が26.8%であった。

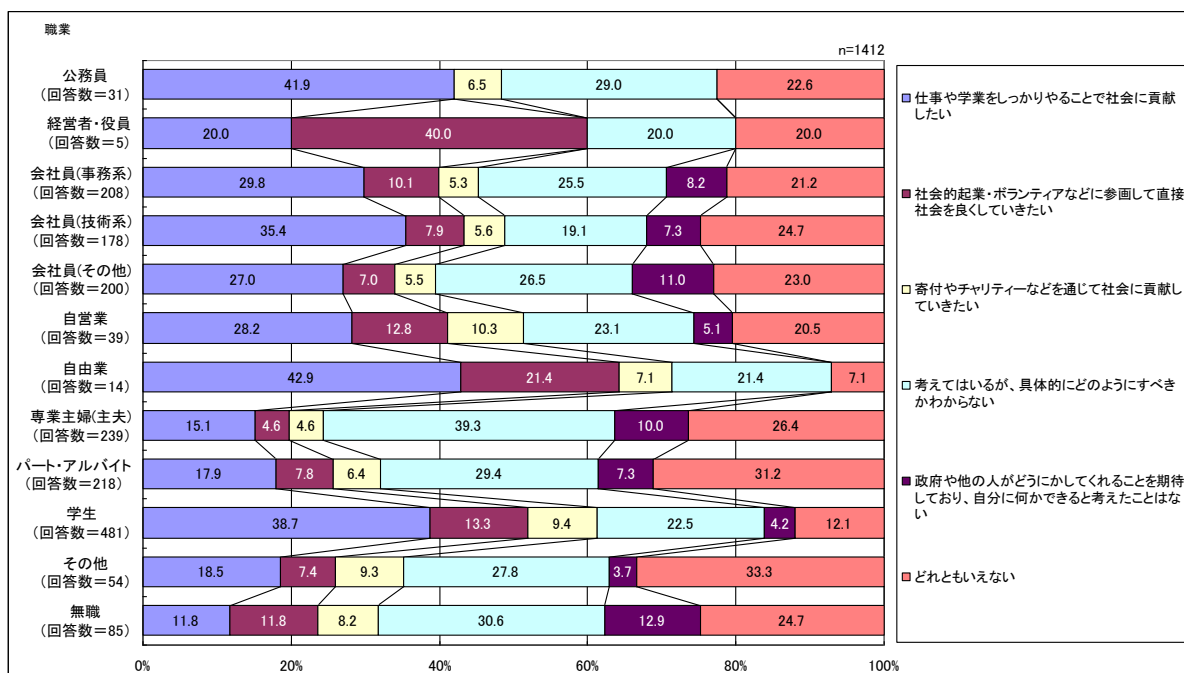
図表 9 日本の未来を良くしようという意欲(全体)



注) 複数回答であったが、回答数ベースで集計を実施し、各選択肢の割合を算出した。

職業別では、経営者・役員で社会的起業やボランティアへの参画などによる社会貢献を志向する者の割合が高く、公務員、自由業、学生で仕事や学業を通じて社会に貢献したいと考えている者の割合が高かった。

図表 10 日本の未来を良くしようという意欲(職業別)



注) 複数回答であったが、回答数ベースで集計を実施し、各選択肢の割合を算出した。

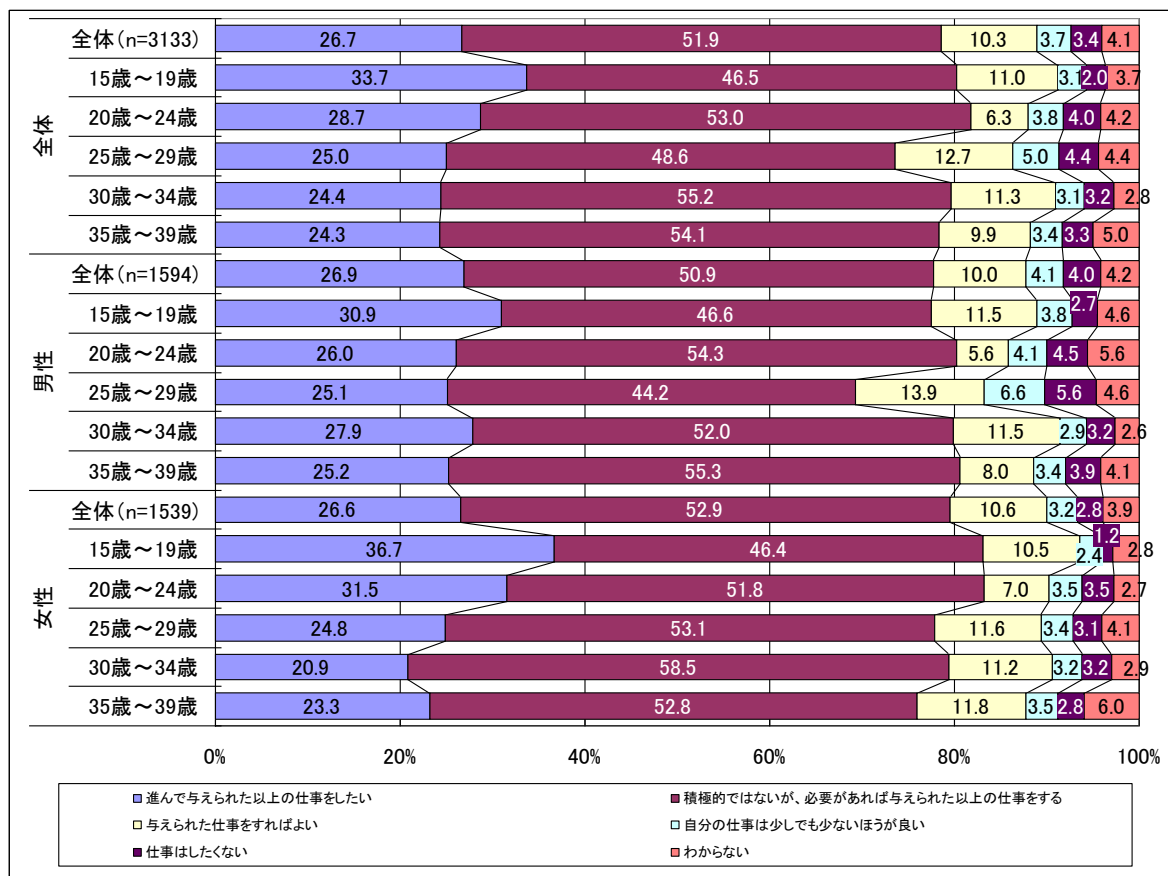


#### (4) 仕事への意欲・海外就労への希望

仕事への意欲は、進んで与えられた以上の仕事をしたと回答した者が 26.7%、積極的ではないが、必要があれば与えられた以上の仕事をする回答した者が 51.9%で併せて 8 割弱が与えられた以上の仕事をする意欲を持っていると回答した。

性別で見ると女性では若年層のほうが仕事に対して意欲的な傾向が見られた。

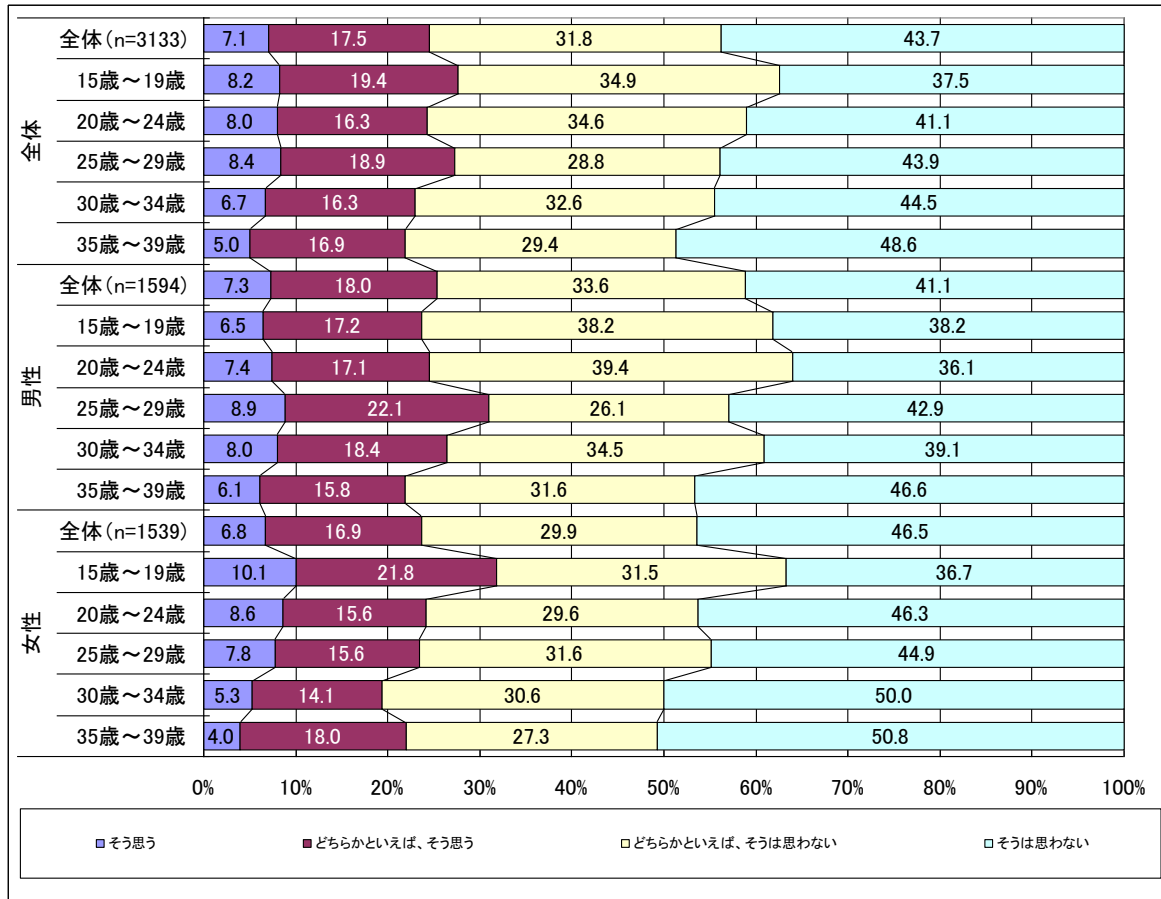
図表 11 仕事への意欲(全体)



海外での就労意向については、就労意向を持つ者（海外就労意向に対して、そう思う、どちらかといえば、そう思うと回答した者）の割合は全体で 24.6%であった一方、海外就労意向を持たない（そうは思わないと回答）者が 43.7%であった。

性・年齢別に見ると、25～29 歳男性、15～19 歳女性の 2つのカテゴリのみ海外就労について「そう思う」との回答をした者の割合が 20%を超えた。

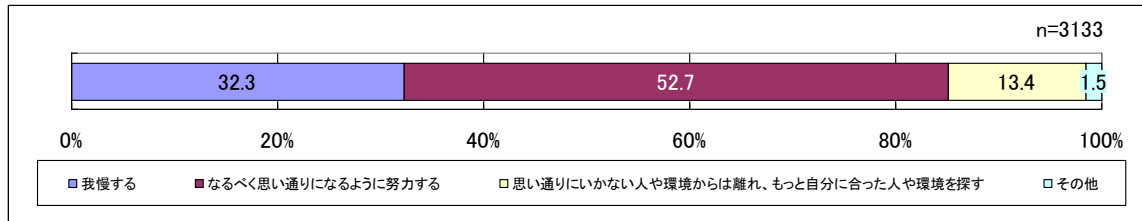
図表 12 海外での就労をしたいと思いますか(全体)



## (5) 我慢強さ

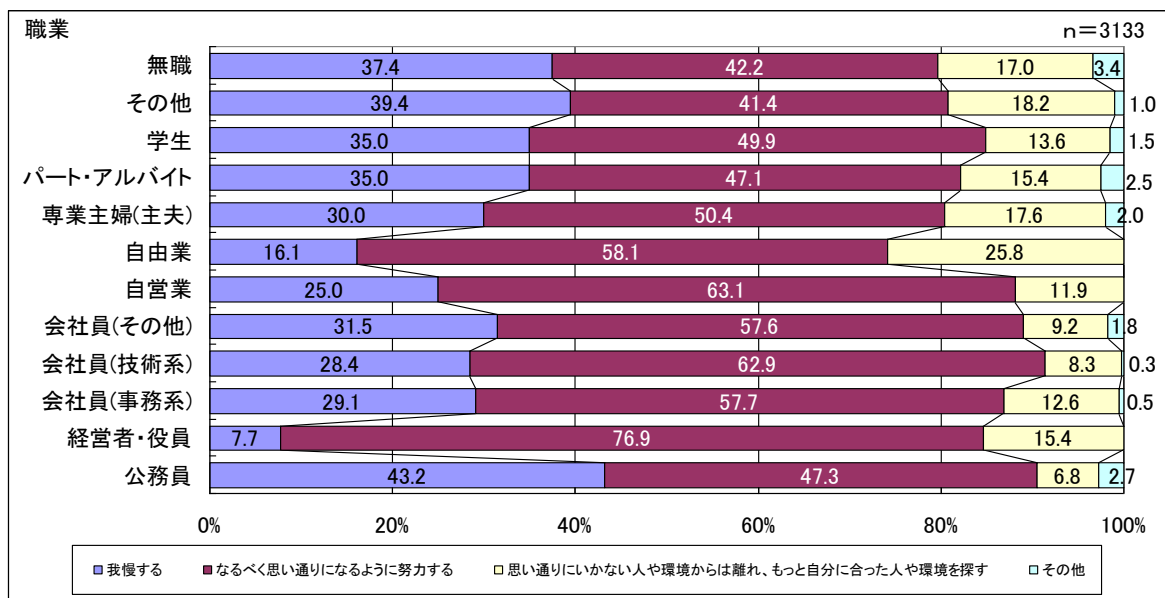
物事が思い通りに行かないときの行動について、全体で 52.5% になるべく思い通りになるようにすると回答した。

図表 13 物事が思いどおりに行かないときの行動(全体)



職業別に見ると、公務員、パート・アルバイト等で我慢すると回答した者の割合が高かった。

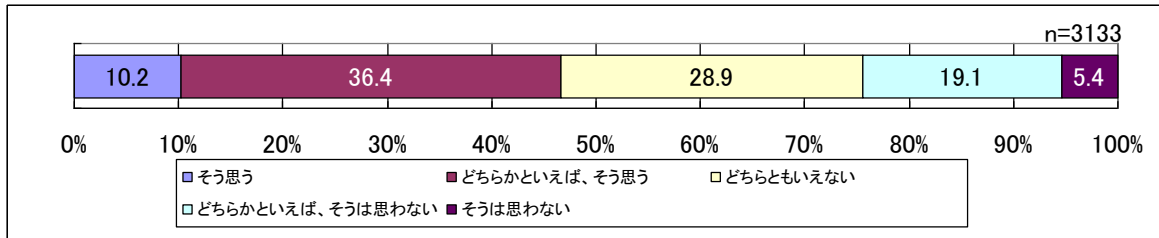
図表 14 物事が思いどおりに行かないときの行動(職業別)



## (6) 他者との関係

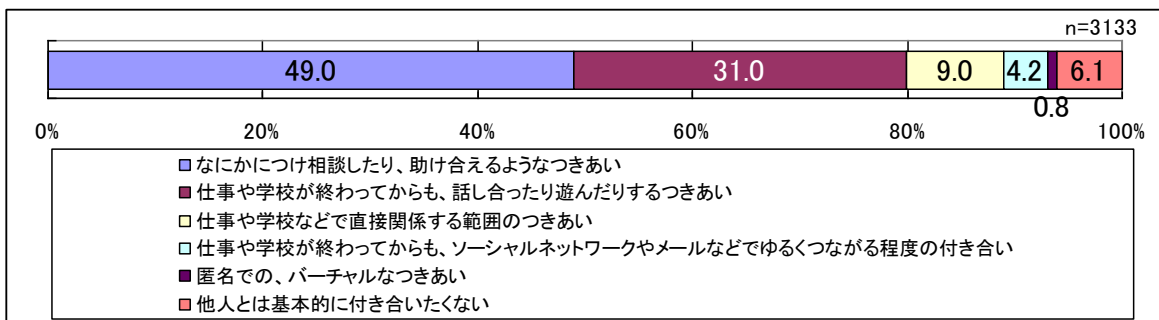
他人と深い関係を持つのは面倒だと思うとの設問に対して、そう思う、どちらかといえばそう思うと回答した者の割合は合わせて 46.6%であった。他方、どちらかといえばそう思わない、そう思わないと回答した者の割合は 24.5%に留まった。

図表 15 他人と深い関係を持つのは面倒だと思う(全体)



最も親しい人との望ましい付き合い方については、49%の回答者が、何かにつけて相談したり、助け合えるようなつきあいと回答した。

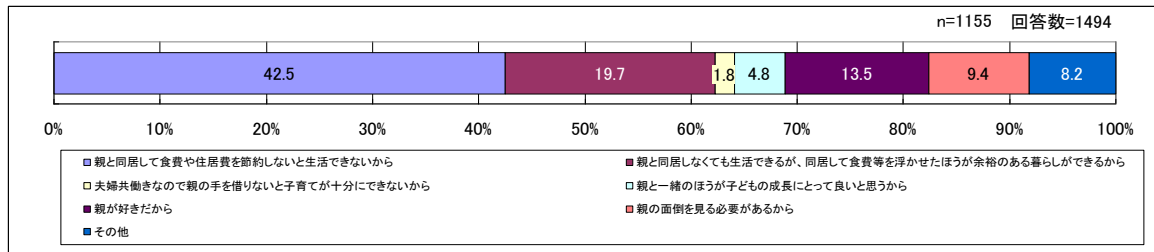
図表 16 最も親しい人との望ましい付き合い(全体)



## (7) 親との同居理由

親と同居している理由について、全体の 62.2%が経済的な理由（親と同居して食費や住居費を節約しないと生活できないから、親と同居しなくても生活できるが、同居して食費等を浮かせた方が余裕のある暮らしができるからと回答した者）を挙げた。

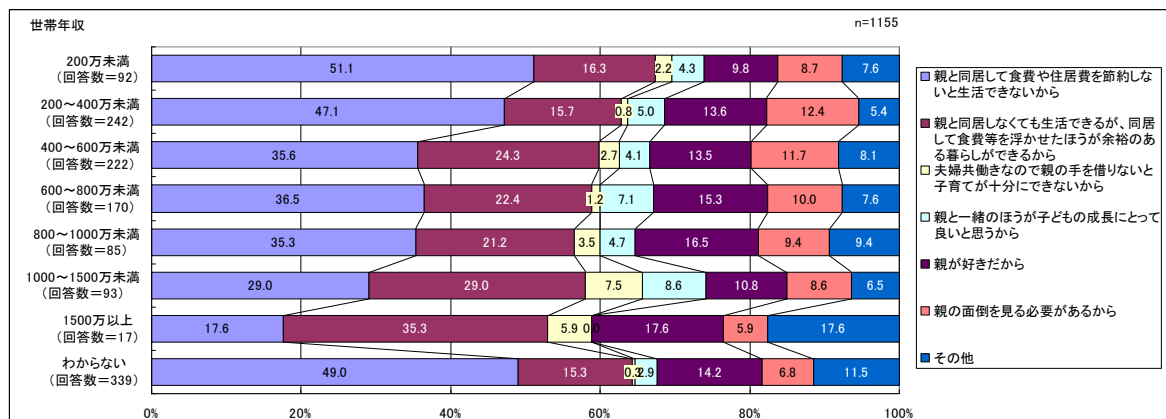
図表 17 親と同居している理由(全体)



注) 複数回答であったが、回答数ベースで集計を実施し、各選択肢の割合を算出した。

世帯年収 200 万円未満の層では、過半数が同居理由を親と同居して食費や住居費を節約しないと生活できないからとしていた。

図表 18 親と同居している理由(世帯年収別)



注) 複数回答であったが、回答数ベースで集計を実施し、各選択肢の割合を算出した。